

令和2年度 九州大学2次試験後期日程(数学問題)120分
工学部 3月12日 数学I・II・III・A・B

1 座標平面上の曲線 C_1 と C_2 をそれぞれ

$$C_1: y = ax^n \quad (x > 0)$$

$$C_2: y = \log x \quad (x > 0)$$

とする。ただし、 n を2以上の整数、 a を実数とする。以下の問いに答えよ。

- (1) $x > 0$ のとき、 $\log x < x$ が成り立つことを証明せよ。
- (2) 曲線 C_1 と C_2 が異なる2点で交わるための a の条件を n を使って表せ。
- (3) a が(2)で求めた条件を満たすとする。曲線 C_1 と C_2 の異なる2つの交点 P , Q の x 座標をそれぞれ p , q とする。ただし $p < q$ とする。このとき、

$$p < \frac{q-p}{a(q^n - p^n)} < q$$

が成り立つことを証明せよ。

2 自然数 n に対して定まる関数

$$f_n(x) = 1 - \sqrt{5} |\sin(2n\pi x)|$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) 任意の実数 x に対して $f_n(x) = f_n\left(x + \frac{k}{2n}\right)$ ($k = 1, 2, \dots, 2n$) が成り立つことを示せ。
- (2) 区間 $\left(\frac{k-1}{2n}, \frac{k}{2n}\right)$ ($k = 1, 2, \dots, 2n$) において $f_n(x) = 0$ は相異なる2つの解を持つことを示せ。
- (3) 区間 $[0, 1]$ における方程式 $f_n(x) = 0$ のすべての解の和を S_n とおくと、極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n}$ を求めよ。

3 正の定数 r に対して座標空間内の 3 点 $O(0, 0, 0)$, $A(r, 0, 0)$, $B(0, r, 0)$ を定める. また, 平面 $y = \frac{1}{2}r$ 上の点 C に対して, 線分 AC の中点を P とする. ただし, 点 C の z 座標は正である. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 点 Q は線分 OB 上の点とする. 定数 a, c に対し, 点 C を位置 $\left(a, \frac{1}{2}r, c\right)$ に固定したとき, $|\overrightarrow{PQ}|$ を最小とする点 Q の座標を求めよ. また, このときの $|\overrightarrow{PQ}|$ を求めよ.
- (2) (1) で求めた点 Q に対して, \overrightarrow{PQ} と \overrightarrow{OQ} のなす角が 90° であることを示せ.
- (3) 点 C は $|\overrightarrow{OA}| = |\overrightarrow{BC}|$ を満たしながら動くとする. (1) で求めた点 Q と 3 点 O, C, P を頂点とする四面体の体積が最大となる点 C の座標と, そのときの四面体 $OCPQ$ の体積を求めよ.

4 直交座標で表された次の 2 つの方程式

$$|x| + |y| = c_1 \quad (\text{A})$$

$$\sqrt{x^2 + y^2} = c_2 \quad (\text{B})$$

を定義する. ただし c_1, c_2 は正の定数である.

- (1) xy 平面上に式 (A) を満たす (x, y) を図示せよ.
- (2) 極座標 (r, θ) を用いて, 式 (A), (B) をそれぞれ極方程式で表せ.
- (3) 原点を除く (x, y) に対して $\frac{|x| + |y|}{\sqrt{x^2 + y^2}}$ の最大値および最小値を求めよ.

5 以下の規則にしたがって数直線上を移動する点 A を考える.

(規則) 点 A が座標 x にあるとき, 表が出る確率が α ($0 < \alpha < 1$) のコインを投げて, 表が出たら x から $\frac{x}{2}$ へ移動し, 裏が出たら x から $1 - \frac{x}{2}$ へ移動する.

点 A がはじめに座標 0 にあるとして, 事象「上記の規則を適用する操作を n 回 ($n \geq 1$) 繰り返した直後に点 A が座標 y にある」の確率を $P_n(y)$ で表す. このとき以下の問いに答えよ.

- (1) $P_1(y) > 0$ となる y ($0 \leq y \leq 1$) とその確率 $P_1(y)$ の組をすべて答えよ.
- (2) $y < 0$ または $y > 1$ のとき, $P_n(y) = 0$ であることを示せ.
- (3) $P_n(1)$ を求めよ.
- (4) k を自然数とするとき, 以下のそれぞれの条件で $P_n(2^{-k})$ を求めよ.
 - ① $n \leq k$ のとき
 - ② $n > k$ のとき

解答例

1 (1) $f(x) = x - \log x$ とおくと $f'(x) = 1 - \frac{1}{x} = \frac{x-1}{x}$

x	(0)	...	1	...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		↘	1	↗

$f(x) \geq 1$ であるから $x - \log x > 0$ よって $x > \log x$

- (2) $a \leq 0$ のとき, $x > 0$ において, C_1 と C_2 は 1 点のみを共有.
 $a > 0$ とし, $g(x) = ax^n - \log x$ とおくと

$$g'(x) = anx^{n-1} - \frac{1}{x} = \frac{anx^n - 1}{x}$$

x	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt[n]{an}}$...
$g'(x)$		-	0	+
$g(x)$		↘	極小	↗

C_1 と C_2 が異なる 2 点で交わる時

$$\begin{aligned} g\left(\frac{1}{\sqrt[n]{an}}\right) &= a\left(\frac{1}{\sqrt[n]{an}}\right)^n - \log \frac{1}{\sqrt[n]{an}} \\ &= \frac{1}{n} + \frac{1}{n} \log an = \frac{1}{n}(1 + \log an) = \frac{1}{n} \log ane < 0 \end{aligned}$$

したがって $ane < 1$ よって $0 < a < \frac{1}{ne}$

- (3) $h(x) = \log x$ とおくと $h'(x) = \frac{1}{x}$

C_1, C_2 の 2 つの交点 P, Q について

$$h(p) = \log p = ap^n, \quad h(q) = \log q = aq^n$$

平均値の定理により

$$\frac{h(q) - h(p)}{q - p} = h'(c) \quad (p < c < q)$$

を満たす c が少なくとも 1 つ存在する. このとき, $h'(c) = \frac{1}{c}$ であるから

$$\frac{1}{q} < h'(c) < \frac{1}{p}$$

したがって $\frac{1}{q} < \frac{aq^n - ap^n}{q - p} < \frac{1}{p}$ よって $p < \frac{q - p}{a(q^n - p^n)} < q$

2 (1) $f_n(x) = 1 - \sqrt{5}|\sin(2n\pi x)| \cdots (*)$ より

$$\begin{aligned} f_n\left(x + \frac{k}{2n}\right) &= 1 - \sqrt{5} \left| \sin 2n\pi \left(x + \frac{k}{2n}\right) \right| \\ &= 1 - \sqrt{5} |\sin(2n\pi x + k\pi)| \\ &= 1 - \sqrt{5} |\sin(2n\pi x)| = f_n(x) \end{aligned}$$

(2) $(*)$ より

$$f\left(\frac{k-1}{2n}\right) = f\left(\frac{k}{2n}\right) = 1, \quad f\left(\frac{2k-1}{4n}\right) = 1 - \sqrt{5} < 0$$

このとき $\frac{k-1}{2n} \leq x \leq \frac{2k-1}{4n}$ で $f_n(x)$ は単調減少,

$\frac{2k-1}{4n} \leq x \leq \frac{k}{2n}$ で $f_n(x)$ は単調増加.

よって, 区間 $\left(\frac{k-1}{2n}, \frac{k}{2n}\right)$ ($k = 1, 2, \dots, 2n$) において, $f_n(x) = 0$ は相異なる2つの解をもつ.

(3) 区間 $\left(\frac{k-1}{2n}, \frac{2k-1}{4n}\right)$ にある解を x_{2k-1} , 区間 $\left(\frac{2k-1}{4n}, \frac{k}{2n}\right)$ にある解を x_{2k} とすると ($k = 1, 2, \dots, 2n$)

$$\frac{k-1}{2n} + \frac{2k-1}{4n} < x_{2k-1} + x_{2k} < \frac{2k-1}{4n} + \frac{k}{2n}$$

したがって
$$\sum_{k=1}^{2n} \frac{4k-3}{4n} < S_n < \sum_{k=1}^{2n} \frac{4k-1}{4n}$$

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad \sum_{k=1}^{2n} \frac{4k-3}{4n} &= \frac{1}{4n} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2n\{1 + (8n-3)\} = \frac{4n-1}{2} \\ \sum_{k=1}^{2n} \frac{4k-1}{4n} &= \frac{1}{4n} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2n\{3 + (8n-1)\} = \frac{4n+1}{2} \end{aligned}$$

上の諸式から
$$\frac{4n-1}{2n} < \frac{S_n}{n} < \frac{4n+1}{2n}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{4n-1}{2n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{4n+1}{2n} = 2$ であるから, はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n} = 2$$

- 3 (1) 点 P は 2 点 $A(r, 0, 0)$, $C\left(a, \frac{1}{2}r, c\right)$ の中点であるから

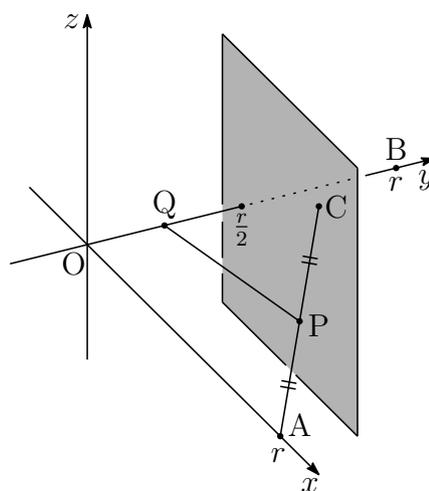
$$P\left(\frac{r+a}{2}, \frac{1}{4}r, \frac{1}{2}c\right)$$

OB 上の点 Q を $(0, q, 0)$ とすると

$$|\overrightarrow{PQ}|^2 = \left(\frac{r+a}{2}\right)^2 + \left(q - \frac{1}{4}r\right)^2 + \frac{1}{4}c^2$$

$|\overrightarrow{PQ}|$ を最小にするのは, $q = \frac{1}{4}r$ のとき

であるから, 点 $Q\left(0, \frac{1}{4}r, 0\right)$ で, 最小値 $\frac{1}{2}\sqrt{(r+a)^2 + c^2}$



- (2) (1) の結果より, $\overrightarrow{PQ} = \left(-\frac{r+a}{2}, 0, -\frac{c}{2}\right)$, $\overrightarrow{OQ} = \left(0, \frac{r}{4}, 0\right)$ であるから

$$\overrightarrow{PQ} \cdot \overrightarrow{OQ} = 0 \quad \text{よって} \quad \overrightarrow{PQ} \text{ と } \overrightarrow{OQ} \text{ のなす角は } 90^\circ$$

- (3) $\overrightarrow{OA} = (r, 0, 0)$, $\overrightarrow{BC} = \left(a, -\frac{1}{2}r, c\right)$ について, $|\overrightarrow{OA}|^2 = |\overrightarrow{BC}|^2$ であるから

$$r^2 = a^2 + \frac{1}{4}r^2 + c^2 \quad \text{ゆえに} \quad a^2 + c^2 = \frac{3}{4}r^2 \quad \dots (*)$$

P, Q からそれぞれ平面 $y = \frac{1}{2}r$ に垂線 PP' , QQ' を引くと

$$P'\left(\frac{r+a}{2}, \frac{1}{2}r, \frac{1}{2}c\right), \quad Q'\left(0, \frac{1}{2}r, 0\right),$$

$\overrightarrow{CP'} = \left(\frac{r-a}{2}, 0, -\frac{1}{2}c\right)$, $\overrightarrow{CQ'} = (-a, 0, -c)$ であるから ($c > 0$)

$$\Delta CP'Q' = \frac{1}{2} \left| \frac{r-a}{2} \cdot (-c) - \left(-\frac{1}{2}c\right) \cdot (-a) \right| = \frac{1}{4}rc$$

四面体 OCPQ の体積を V とすると

$$V = \frac{1}{3} \Delta CP'Q' \cdot OQ = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{4}rc \cdot \frac{1}{4}r = \frac{1}{48}r^2c$$

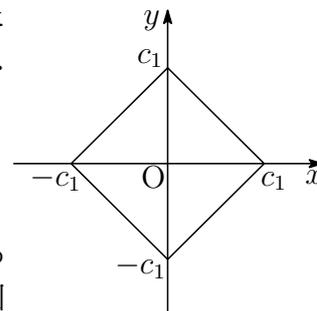
(*) より, V は $c = \frac{\sqrt{3}}{2}r$, $a = 0$, すなわち, $C\left(0, \frac{1}{2}r, \frac{\sqrt{3}}{2}r\right)$ のとき,

最大値 $\frac{\sqrt{3}}{96}r^3$ をとる.

- 4 (1) 点 (x_1, y_1) が、方程式 $|x| + |y| = c_1 \cdots (A)$ を満たすとき、点 $(\pm x_1, \pm y_1)$ も (A) を満たす (複号任意).
 $x \geq 0, y \geq 0$ のとき、 (A) は

$$x + y = c_1$$

これは2点 $(0, c_1), (c_1, 0)$ の両端を含む線分であるから、対称性により、 (A) の表す図形は、右の図のようになる.



- (2) (A) に $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ を代入すると ($r \geq 0, 0 \leq \theta < 2\pi$)

$$r|\cos \theta| + r|\sin \theta| = c_1 \quad \text{よって} \quad r = \frac{c_1}{|\cos \theta| + |\sin \theta|}$$

- (B) に $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ を代入すると ($r \geq 0, 0 \leq \theta < 2\pi$)

$$r\sqrt{\cos^2 \theta + \sin^2 \theta} = c_2 \quad \text{よって} \quad r = c_2$$

- (3) $(x, y) \neq 0$ に対して、 $f(x, y) = \frac{|x| + |y|}{\sqrt{x^2 + y^2}}$ とおくと

$$f(x, y) = f(\pm x, \pm y) \quad (\text{複号任意})$$

であるから、 $f(x, y)$ の最大値・最小値は $x \geq 0, y \geq 0$ について、調べればよい. したがって、 $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ とおくと ($r > 0, 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$)

$$f(x, y) = \frac{r \cos \theta + r \sin \theta}{r} = \sqrt{2} \sin \left(\theta + \frac{\pi}{4} \right)$$

$$\frac{\pi}{4} \leq \theta + \frac{\pi}{4} \leq \frac{3}{4}\pi \quad \text{であるから} \quad 1 \leq f(x, y) \leq \sqrt{2}$$

よって 最大値 $\sqrt{2}$, 最小値 1

別解 $\vec{u} = (1, 1), \vec{v} = (|x|, |y|)$ のなす角を φ とすると、 $0 \leq \varphi \leq \frac{\pi}{4}$ であるから

$$\cos \varphi = \frac{\vec{u} \cdot \vec{v}}{|\vec{u}| |\vec{v}|} = \frac{|x| + |y|}{\sqrt{2} \sqrt{x^2 + y^2}}, \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \leq \cos \varphi \leq 1$$

$$\text{したがって} \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \leq \frac{|x| + |y|}{\sqrt{2} \sqrt{x^2 + y^2}} \leq 1 \quad \text{ゆえに} \quad 1 \leq \frac{|x| + |y|}{\sqrt{x^2 + y^2}} \leq \sqrt{2}$$

5 (1) 与えられた規則により $P_1(0) = \alpha$, $P_1(1) = 1 - \alpha$

(2) 操作を n 回 ($n \geq 1$) 繰り返した直後の点 A の座標を x_n とする.

「すべての自然数 n について $0 \leq x_n \leq 1$ 」 $\cdots (*)$

[1] (1) の結果から, $x_1 = 0$ または $x_1 = 1$ である.

したがって, $n = 1$ のとき $(*)$ は成立する.

[2] $n = k$ のとき, $0 \leq x_k \leq 1$ であると仮定すると

$$x_{k+1} = \frac{x_k}{2} \quad \text{または} \quad x_{k+1} = 1 - \frac{x_k}{2}$$

上の 2 式から $0 \leq \frac{x_k}{2} \leq \frac{1}{2}$, $\frac{1}{2} \leq x_{k+1} \leq 1$ ゆえに $0 \leq x_{k+1} \leq 1$

したがって, $n = k + 1$ のときも $(*)$ が成立する.

[1], [2] より, すべての自然数 n に対して, $(*)$ が成立する.

$(*)$ より, $y < 0$ または $y > 1$ のとき $P_n(y) = 0$

(3) $x_n = 1$ のとき, $x_{n-1} = 0$ である. さらに

$$x_{n-2} = 0 \rightarrow x_{n-3} = 0 \rightarrow \cdots \rightarrow x_2 = 0 \rightarrow x_1 = 0$$

最初の $n - 1$ 回はすべて表, n 回目に裏が出る確率であるから

$$P_n(1) = \alpha^{n-1}(1 - \alpha)$$

(4) $x_n = 2^{-k}$ のとき

$$x_{n-1} = 2^{-k+1} \rightarrow x_{n-2} = 2^{-k+2} \rightarrow \cdots \rightarrow x_{n-k+1} = 2^{-1} \rightarrow x_{n-k} = 1$$

したがって, $x_{n-k} = 1$ となった後, 表裏に関係なく $x_{n-k+1} = 2^{-1}$ となり, その後, 連続して表が $k - 1$ 回出る確率である.

① $n \leq k$ のとき, $x_{n-k} = 1$ となることはないから $P_n(2^{-k}) = 0$

② $n > k$ のとき, (3) の結果を利用して

$$\begin{aligned} P_n(2^{-k}) &= P_{n-k}(1) \cdot \alpha^{k-1} \\ &= \alpha^{n-k-1}(1 - \alpha) \cdot \alpha^{k-1} \\ &= \alpha^{n-2}(1 - \alpha) \end{aligned}$$